

論文の内容の要旨

氏名：XING YI

博士の専攻分野の名称：博士（工学）

論文題名：国際物流管理における入出荷業務の規制強化の影響に関する研究

近年の経済グローバル化の進展は目覚ましく、とくにアジアにおける経済圏の拡大は国際物流の可能性をこれまで以上に大きなものとしている。しかしながら、日本に拠点を置く製造業がASEAN（東南アジア諸国連合）などの海外、あるいは日本国内から部品を調達、輸入し、日本国内で組立工程などをこなし、完成品を「世界の消費地」といわれる中国に輸出するスキームを円滑にこなしているかという点必ずしもそうではない。

確かにグローバル化による経済圏の拡大で税関業務は簡略化、電子化される方向にある。しかし、出荷・輸出に関してはリスト規制、キャッチオール規制により業務が複雑化されており、調達・入荷業務についても下請法による規制強化が進んでいる。大枠では税関業務の簡略化などで経済圏の拡大が進められている一方で、輸出入に係わる入出荷の段階では規制強化が進んでいるのである。

それゆえ、グローバル経済の現状を把握したうえで、輸出について迅速かつ効率的な出荷業務と規制に基づき、輸出管理を行い、同時に国内外から部品を下請法に従いながら、迅速かつ円滑な輸入・入荷業務をこなし、海外、あるいは国内工場などから調達する必要がある。

そこで本研究ではASEANと中国を中心にアジア経済圏における製造業の現場が直面する日本企業の国際物流管理において、入出荷業務の規制強化の影響について、その現状を考察し、課題を明らかにする。

本論文の構成は次の通りになる。

第1章は序論であり、本論文の目的と構成を示している。

第2章ではアジアにおける物流事情の現状を考察し、課題を抽出している。ASEANの急速な発展を踏まえて、物流施設・設備の近代化に大きな遅れが見られる国も多いなか、物流において各国がどのような改革、改善を進める必要があるのかを貿易及び国際物流システム、ならびに物流インフラの視点から分析している。その結果、アジアにおいてはシンガポールなどの一部の国の国際及び国内の物流インフラは世界標準を達成しているが、発展途上である国も多く、国際物流の円滑な展開には早急なインフラ構築が必要であることが明らかになった。

第3章は、中国における保税区の構造を踏まえたうえで、中国の税関・港湾システムについて実地調査を行い、現状を分析し、課題を抽出した。アジア各国の税関・港湾システム及び物流インフラ構築の遅れを考慮すると、中国税関・港湾システム及びの物流インフラが高い水準にあることが確認できる。

第4章では国際物流における出荷・輸出管理について、その詳細を論じている。リスト規制、キャッチオール規制に対する輸出管理業務の一連のフローを示し、その煩雑性、並びに複雑性を明らかにしている。

そこでリスト規制、キャッチオール規制に係わる実務担当者は輸出管理部門、該非判定部門、特定技術の該非判定部門、キャッチオールシートの確認部門のほか、営業部門、調達・輸入部門などにも及ぶことを踏まえて、横断的な組織の新設を提案し、そのスケジューリング管理についてのモデル化を行っている。

第5章では国際物流における入荷・輸入業務について製造業の国際物流担当者が直面する下請法との係わりについて概要を説明し、考察を行った。下請法の運用基準の改正により、当日発注、当日納品などの下請業者に過酷な対応を迫らないように行政指導が行われている。製造業の現場での入荷・輸入のプロセスが平準化されていなかったり、効率化したりされていないと、結果として出荷元の下請業者にも負荷がかかる可能性がある。

第6章では工場倉庫、物流センターなどで行われる出荷に際しての構内運搬作業の負荷軽減と効率化について検討し、シミュレーションを通してアシストスーツの導入効果を検証している。初期投資の回収後、ランニングコスト削減のメリットを享受できることが明らかになっている。

第7章では、地域経済統合における税関業務などの円滑化の方向性と、キャッチオール規制、下請法などの規制強化による入出荷業務の複雑化のトレードオフについて考察している。出荷・輸出業務については、

リスト規制及びキャッチオール規制に関わる実務知識，入荷・輸入業務については発注業務を効率化したうえで下請法に係わる実務知識を体系的に身につける必要がある。

グローバル化時代に求められる国際物流業務のあり方を輸出管理の重要性和下請法の遵守を念頭においた円滑かつ効率的な業務体制の構築が必要になることがわかる。

以上を踏まえ、第8章では結論を述べている。

なお、今後の課題は、コロナ禍で国際物流においてもパンデミック防止などの観点から新しい規制やシステムの構築が求められる時代となることを踏まえて、その具体的な方策を模索し、検討していくことと考える。

以 上